平成３０年８月定例会会議録

（平成３０年８月６日）

八代市教育委員会

八代市教育委員会８月定例会会議録

【開 催 日】　平成３０年８月６日（月）

【場　　所】　八代市千丁支所２階　庁議室

【出 席 者】
北　岡　　博　教育長
冨　田　壽　人　教育委員
小　嶋　ひろみ　教育委員
松　永　松　喜　教育委員
水　田　千　春　教育委員

【出席職員】
宮　田　　径　教育部次長
和久田　敬　史　教育部次長
機　　智三郎　教育政策課長
服　部　拓　生　教育政策課副主幹兼学校給食係長
吉　村　紀美子　教育政策課学校管理係長
坂　部　功　泰　教育政策課主査
西　村　　裕　学校教育課長
東　田　倫　明　学校教育課課長補佐
松　田　英　里　学校教育課教育支援係長
兒　嶋　顕　伸　学校教育課指導主事
西　村　祐　紀　学校教育課主事
有　馬　健　一　教育部首席審議員兼教育施設課長
松　野　光　洋　教育施設課課長補佐兼設備係長
五十嵐　　誠　教育施設課副主幹兼建築係長
澤　田　宗　順　教育部理事兼生涯学習課長
小　山　弘　行　生涯学習課課長補佐
永　山　道　也　生涯学習課副主幹兼管理係長
池　田　尚　武　生涯学習課副主幹兼生涯学習推進係長
沖　村　　巧　教育サポートセンター所長
福　原　　透　博物館未来の森ミュージアム副館長

【事 務 局】
岩　崎　伸　一　教育政策課課長補佐兼教育政策係長
西　村　妙　子　教育政策課主任

【審議事項】　＜議案案件＞
①八市教委議第２２号　「はばたけ、八代っ子」～中学校部活動の指針～の改訂について
②八市教委議第２３号　平成３１年度使用教科用図書の採択について

③八市教委議第２４号　八代市社会教育委員の委嘱について
＜協議案件＞
①協議第　２　号　教育に関する事務執行状況の点検・評価について

１．開会　（午前９時３０分開会）

２．会議録承認　平成２９年１２月定例会、平成３０年１月定例会、平成３０年２月定例会

３．教育長報告

北岡教育長　前回の会議から今回までに参加した行事や事業、委任された事項などの中で特に重要と思われるものについて報告

４．議題

北岡教育長　八市教委議第２３号　平成３１年度使用教科用図書の採択については、適切な審議環境を確保する必要があるため、秘密会にすることを提案する。

教育委員　全員異議なし

北岡教育長　八市教委議第２３号　平成３１年度使用教科用図書の採択については、八代市教育委員会会議規則第５条に基づき秘密会とする。

北岡教育長　本日の議題の進め方について、議題のうち八市教委第２２号及び八市教委第２４号を審議後、議事を一時中断し、各課の連絡事項を行う。その後、協議第２号に続き、秘密会とした八市教委議第２３号の審議を行う。

〈八市教委議第２２号　「はばたけ、八代っ子」～中学校部活動の指針～の改訂について〉

西村学校教育課長　スポーツ庁から運動部活動の在り方に関する総合的なガイドラインが示され、それにより熊本県教育庁の運動部活動の在り方に関する方針、文化部活動の在り方についての指針が示されたため、八代市教育委員会と氷川町教育委員会が共同で策定している「はばたけ、八代っ子」の改訂が必要となった。改訂に当たり、「はばたけ、八代っ子」部活動検討委員会を２回開催し、過剰な活動に歯止めをかけ、生徒の発達段階に応じた適正な部活動のあり方、教職員の働き方改革、熱中症事故の予防

等生徒の安全確保についても考慮しながら、協議を行った。また、文化部についても「はばたけ、八代っ子」部活動指針に基づいて活動していくことを共通理解し、協議を行い、活動方針を作成した。主な改訂内容は、次のとおりとなる。

・週の休養日を平日１日以上、週末１日以上の計２日以上とする。
・練習時間は、平日が長くても２時間程度、休日が長くても３時間程度とする。
・中体連主催又は共催大会以外の大会出場は、年間１０大会以内とする。
・生徒の安全確保に関する項目を追加し、熱中症予防等について県の指針を記載する。

子どもたちの健全育成のための指針という視点で検討を行った。各教育委員会で承認されたものを各中学校へ通知し、改定した指針に基づき各学校独自の活動指針を策定することとなっている。

松永教育委員　第１日曜日の家庭の日を考慮し、休養日を設定しているか。

西村学校教育課長　家庭の日を考慮して、設定してある。

冨田教育委員　各大会の参加回数は、従来１０回を超える参加があったか。

西村学校教育課長　ほとんどの中学校の全ての競技で調査をし、ほぼ１０大会以内に収まっている。ソフトテニスが多い現状があったのでそこを含めて１０大会としている。県立中学校の指針も１０大会以内となっている。

北岡教育長　練習試合の範囲が原則として県域内となっているが、学校等から何か意見はなかったか。県外であることがあると思うが。

西村学校教育課長　部によっては県外に行くことがあるかもしれないが、原則として県域内とし、中体連の指針等に基づいて、県外等に行くときは校長の承認を取るように、としている。

【議案第２２号　承認】

〈八市教委議第２４号　八代市社会教育委員の委嘱について〉

澤田教育部理事　現在委嘱している委員に異動が生じたため、補欠委員を委嘱

兼生涯学習課長　する。補欠委員の委嘱期間は、前任者の残任期間の平成３１年７月３１日までとする。

【議案第２４号　承認】

（議事一時中断）

５．連絡事項　教育政策課　教育委員会安全衛生委員会について

学校教育課　全国中体連壮行会について、２学期始業式について

生涯学習課　アウトドアスクールについて、部落解放第３１回熊本県研究集会地元実行委員会について

教育サポートセンター　伝統文化セミナーについて、第３回トワイライトセミナーについて、第６０回熊本県教育研究所連絡協議会における発表について、特別支援教育アドバンス研修会について、いきいき学習やつしろセミナーについて

博物館　夏季特別展覧会について

事務局　９月定例会日程確認（9/26　14：00～）

（議事再開）

〈協議第２号　教育に関する事務執行状況の点検・評価について〉

機教育政策課長　教育に関する事務執行状況の点検・評価の進め方については、各事業の実施状況について各課から３分間説明を行い、その後５分間の質疑で各委員から意見、要望等をもらう。

外部評価の第１回会議を８月末日に予定しており、９月の第２回会議で取りまとめる。報告書についての提案については、１０月定例会に行う。

北岡教育長　事務事業評価の説明を順にお願いしたい。

福原博物館未来の森ミュージアム副館長　○博物館特別展覧会事業（春季）

事務事業票に沿って事業内容等について説明

質問等なし

（承認）

福原博物館未来の森ミュージア　○博物館特別展覧会事業（秋季）

事務事業票に沿って事業内容等について説明

ム副館長

小嶋教育委員　　展覧会のキャッチコピーは、博物館の職員が考えているのか。

福原博物館未来の森ミュージアム副館長　　２、３ヶ月かけて、アイデアを出し合うなどして、来館者を集めるためにいろいろと考えて決めている。

冨田教育委員　　くま川教室の子どもたちと博物館へ行ってみて、作品の微妙な違いを発見したり、説明を聞いて納得したりした。とてもよかった。

福原博物館未来の森ミュージアム副館長　　知っているようで知らない八代の宝を発掘することが大きな仕事の一つだと思っている。来てみたら驚いたというのが一番うれしいところである。

（承認）

有馬教育部首席審議員兼教育施設課長　　○小学校非構造部材耐震改修事業
事務事業票に沿って事業内容等について説明

北岡教育長　　「前倒し」について簡単に説明してほしい。

有馬教育部首席審議員兼教育施設課長　　当初は、平成２９年度に事業の計画をし、文部科学省に補助申請をすることとしていたが、文部科学省から２８年度に前倒しで補助をつけてもらえることとなったため、市の事業も前倒しして２８年度の１２月補正予算によって対応した。実際の工事は２９年度の夏休みだったが、予算自体を前倒しで計上している。

有馬教育部首席審議員兼教育施設課長　　○中学校非構造部材耐震改修事業
事務事業票に沿って事業内容等について説明

松永教育委員　　小学校と同様に前倒しで早く行って欲しい。

有馬教育部首席審議員兼教育施　　○泉第八小学校空調設備改修事業
事務事業票に沿って事業内容等について説明

設課長　　質問等なし

（承認）

西村学校教育課長　○小中一貫・連携教育推進事業
事務事業票に沿って事業内容等について説明

小嶋教育委員　中一ギャップの軽減、学びの連続性については各校区で取組が進んでいるとあるが、具体的にどういったことでそう思っているのか。

西村学校教育課長　不登校の出現率は減っていないという課題はあるものの、各小中学校で７つの取組を進めてもらい、中学校区ごとに研究発表をしてもらっているがその成果が出ていること、また、熊本版ＣＳを導入する際に、同じ校区の小学校、中学校で一つのＣＳを立ち上げるなど、連携が進んでいるという実態をつかんでいることからそのように考えている。

小嶋教育委員　不登校がなぜ減らないのか、もう１回考え直さないといけない部分があるのではないかと思う。その中で中一ギャップの軽減、学びの連続性について取組が進んでいると先生方が捉えているというのは、子どもにそういうことが現れているからではないかと思うが、具体的に何かあれば教えて欲しい。

東田学校教育課課長補佐　各校区で小中の合同研修会を行って、児童生徒の情報交換をし、共通理解を深めている。小中の合同行事を行いながら子ども同士、小中学校をつなぐ取組を積極的に行っている。

冨田教育委員　小中一貫・連携教育は、大切な視点だと思うが、現在までやってきて、大きな課題というのがあるのではないかと思うが、どうか。

東田学校教育課課長補佐　小学校の不登校は減ったが、その減った分を超えて中学校の不登校が増えている。取組を熱心にやっているがなかなか減らないことが大きな課題だと感じている。

冨田教育委員　小学校で不登校、不登校気味というのが、確実に中学校に伝えられているかという問題と、中学校の先生がそれに対応できているかという問題はどうか。

東田学校教育課課長補佐　十分なつなぎができているかの検証は、これから教育委員会でしっかりやっていかないといけないと感じている。

西村学校教育課長　小学校の不登校の情報は、中学校に渡してある。中学校で増えているという現状があるので、市教委としての課題である。

水田教育委員　なぜ不登校になっているのか、理由は一人ひとり違うと思うが、理由について統計をとっているのか。

東田学校教育課課長補佐　統計はとっている。どういう理由で不登校になったのかは各学校から上がってきている。それをしっかり分析し、学校と連携しながら取り組んでいかないと減っていかないと思う。

水田教育委員　中一ギャップが原因ではないかというのが、おおまかなところか。

東田学校教育課課長補佐　中一ギャップは要因の一つであって、中学校の場合は複数の要素が絡み合って不登校になっている実態があるので難しいところである。市教委としても検証を重ねていかなければならない。

水田教育委員　不登校の子どもの学習面はどういうふうにしているのか。プリントを渡すなどがあるのか。学習面も心配している。

東田学校教育課課長補佐　教科担任と連携をとりながら、その子に合わせて学力低下にならないよう学校では取り組んでいる。

小嶋教育委員　不登校の子どもが、小学校では減っていて、中学校では増えている。小中一貫教育は、そういう子どもたちの情報を９年間で共有しようというところから始まっていると思う。学力向上に力を入れることは大事だと思うが、小学校のうちに勉強ができることで見過ごされている子供がかなりいる。中一ギャップだけが問題ではないし、困らせないで頑張っている子どもが中学校に行って我慢できなくなっている状況を学校訪問等で見ていて感じる。小学校の先生は担任を持っていて、一人ひとりを自分のクラスでみているが、教科になるとなかなかそれが見えないので、中学校は特別支援教育が課題であると思っている。ここでどうにかしないといけないと感じている。不登校が減らない状況に危機感を覚える。めざす１５歳の姿というのはどういう姿をいっているのか尋ねたい。

西村学校教育課長　　不登校については、原因が多岐に渡っており、今年度６月末の中１の不登校１０人は、小学校からの継続で、中一ギャップではない。中学校になって環境の変化、家庭的なものも特別支援教育の視点からみていくことが大事である。また、一人ひとりの不登校については各学校からその子の状況、家庭環境等をＳＳＷ、スクールカウンセラーにつなぐようになっている。

小嶋教育委員　　小学校のときから不登校や問題を抱えている子どもの場合は、相談事業所の相談員等が関わっていると思う。先生１人で抱え込むととても大変なので、アセスメントをきちんとして、それを共有し、スクールカウンセラー、事業所とも連携をとっていってほしい。子ども自体をしっかりみていただけるよう先生方にお願いしたいと思う。

西村学校教育委員　　情報共有と一人ひとりを大切にするという視点から今申し上げた取組を継続し、きちんと把握していきたいと思う。

（承認）

西村学校教育課長　　〇いじめ対策等推進事業
事務事業票に沿って事業内容等について説明

水田教育委員　　このような事業を立ち上げて、いじめ対策をとっているというような広報を子どもたちに対して何かされているか。

西村学校教育課長　　各学校でいじめ防止推進法に基づいた計画を立てている。その中にセーフティネットの視点から子どもたちへはいつでも相談して欲しいと、地域の方に何かあったらいつでも情報をくださいと啓発、広報を行っている。いじめ根絶月間である６月には、子どもたちや地域の方へ学校だより等により発信している。

水田教育委員　　子どもたちは、いじめがもっとひどくなるのではないかという恐怖心があると思う。リーフレットなどで、もう少しわかりやすく、子どもたちが不安を感じないような環境をつくってほしい。

冨田教育委員　　九州地区の教育委員研修会に参加したときにいじめ問題について各県の対応を聞いた。先生たちの足の運びが遅いと言われていた。初期の段階で対応を誤ると問題が深まっていって親

や家族と対峙することになる。先生は動いていって親に話をし、説明をするということができていけば、いじめも減っていくのではないか。親の現状としては、何かあると子どもの言い分を大切にするので、学校が一生懸命やっていてもうまく伝わらず誤解されることもあると思う。頑張ってほしい。

（承認）

西村学校教育課長　○特別支援教育推進事業
事務事業票に沿って事業内容等について説明

松永教育委員　「総合評価の理由」を聞いて、これだけ取り組んでいるので総合評価はＡでよいのではないか。

東田学校教育課課長補佐　教職員の専門性について考えると、八代支援学校、特別支援学級の先生たちの免許保有率が４割程度で、専門性に課題がある。それをフォローするために研修会等を開催し、専門性を高めているが、もっと充実させたいという思いからＢとした。しかし、先生たちは教育委員会と連携をとりながら非常に頑張っていると思う。

冨田教育委員　教育現場で完成というのはなく、教育の目標を達成していく上で課題が残っていくものである。あまり自分たちを抑えてしまうと、あれもこれもと増えてしまう。例えば、今まで３学級あった特別支援のクラスが５つに分けられ、そこに指導員が配置されたということがあれば、これで一つステップが上がって、頑張っているということでいいと思う。評価することは難しい。

西村学校教育課長　巡回相談員の先生たちが担任を持っている中で時間をみつけて来てもらっている現状はありがたいことだと思っている。

松永教育委員　あとに何が残されているのかを考えておられるので、そこを実行していけばいい。

小嶋教育委員　先生方、保護者、子どもが困っているというのを知っているので、Ａにはできないと考えておられると思う。本人、保護者、福祉担当、教育現場のみんなが頑張っているのにうまくかみあわず、その成果が現れていない。専門性の話があったが、免状をもらうというのも目標だと思うが、実際に免状を持っている

からすばらしいかと言えばそうでもなくて、子どもを見る力のある先生はたくさんいる。そういう先生がこのままじゃいけないが、どうすればいいかわからないから、特別支援の研修、講義のときにたくさん集まられる。それによって、本当に困っているのだと感じておられるからＢだと判断されていると思う。少しでも不登校やいじめが減るように、支援の必要な子どもたちが自分の弱点を知り、コントロールできるようになって、人と関わりながら社会に出ていくことが普通のこととなるように、今はもがいている時期だと思う。それで先生方もＢと判断されていると思う。頑張りはＡでもいいと思っている。

北岡教育長　　総合評価はＢでいいか。なかなか達成できたと言いづらい面もあるのか。

冨田教育委員　　特別支援の子どもたちの学校への出席状況はどうなっているか。

東田学校教育課課長補佐　　個人差があり、ほぼ無欠席の子もいれば、なかなか足が向かない子どももいる。

冨田教育委員　　学校としては一生懸命対応しようとしているが、３日欠席すると毎日来る子は３日進んでいるが、また教材の内容が３日分戻ることになり、普通学級より指導上大変な面があると思う。そのような負担を感じて頑張っているのに、あれもこれもできていないと言われると大変だと思う。そういう状況を付加して説明されるとわかると思う。

北岡教育長　　総合評価はＢでいいか。もう達成できましたとは、担当課としては難しいか。担当課としてはどうか。

西村学校教育課長　　とてもありがたいがもっとやれるという気持ちもあるし、今一生懸命やってもらっていて、これ以上負担を求めるのはという部分もある。

松永教育委員　　結局ハードルを上げるとそれだけの負担がかかる。ハードルを下げていつでもみんなが越せるような体制でいくといいのでは。

北岡教育長　　この事業については、学校の先生がというよりも担当課がということであると思う。

小嶋教育委員　　特別支援推進事業の内容としては、十分達成されているのではないかと思う。結果を求めるものではないので、Ａでいいのではないか。

西村学校教育課長　　事業に関しては、各関係機関と連携をしっかり図って、ニーズに応えているということで、総合評価をＡとさせていただき、変更したいと思う。

北岡教育長　　総合評価をＢからＡに変更する。

（承認）

西村学校教育課長　○学校支援職員配置事業
事務事業票に沿って事業内容等について説明

小嶋教育委員　　特別支援教育支援員の応募状況はどうなっているか。

東田学校教育課課長補佐　　昨年は、募集人数よりも１０人程度多めに応募があった。

西村学校教育課長　　本年度６月に入ってやっと配置できた学校があった。なかなか人がいないというのが、今後心配される。

小嶋教育委員　　以前から選べる状況ではないと聞いていたが、できれば適当な方が支援員に入ってもらうと先生たちも助かると思う。

冨田教育委員　　評価でＢにしているが、成果指標からみると、計画に沿った配置をされている。事業の計画からするとＡでもいいのではないかと思う。

松永教育委員　　市単独で行う事業で、かなり効果が出ているがまだ支援員等が必要であるからとＢにされている。評価は評価でしてよいと思う。

西村学校教育課長　　看護士も含めて支援員は、各学校でよく頑張っていただいている。学校訪問においても助かっていると聞いている。

北岡教育長　　特別教育支援員について、学校からの要望が多い。図書館支援員についても複数校を兼務しているものが単独になれば、なお良いという要望がある。市単独事業であるため、予算との絡

みもあり、増やすほど事業費も大きくなる。

小嶋教育委員　特別支援教育が必要な子の扱いに困られて、特別支援教育支援員の配置をお願いされている学校もあると思う。本来ならば、先生たちで対応できるようにならないといけない。支援員はあくまでも支援員であることを学校へ言ってもらいたい。対応が必要な子どもがなぜ困っているのか、しっかり向き合ってもらうようにしてもらいたい。

西村学校教育課長　そのことについては、校長会とも連携して進めているところである。

水田教育委員　幼稚園の先生たちは、人数がギリギリであるため休めない状況である。特別支援教育支援員の配置を少し増やしてもらうと、対応ができるのではないかと思う。今後、特別支援の必要な子どもの受け入れも広げられると思うので、必要になる場面も多くなると思う。予算はかかると思うが、ぜひお願いしたい。

北岡教育長　総合評価はＢとなっているが、なかなか全てをＡにというのは難しいと思う。

西村学校教育課長　事業として支援員の配置もされていること、成果がでていることから、Ａに変更する。

（承認）

西村学校教育課長　〇豊かな心を育むための講演会事業
事務事業票に沿って事業内容等について説明

小嶋教育委員　先生や親に言われても素直に受け入れない子どもが外部の方からいろんなメッセージを受け取るという意味では、きちんと実施されているので、評価はＡでいいのではないか。

冨田教育委員　実施校の先生や子どもたちからの感想やアンケートなどがあるか。

松田学校教育課教育支援係長　アンケートはなく、感想文は各学校でとってあり、手元にはない。各学校からの報告書はある。

和久田教育部　報告書があれば、効果やどういう状況だったかがそこに書い

次長　　てあるのではないか。

松永教育委員　　効果があるから報告書が出ていると思う。地元の人を講師にされて、講師も張り切ってされていると思う。

西村学校教育課長　　手元にはないが、実施した学校からは有益であったと感想があがっている。

冨田教育委員　　この事業は今後も継続してやっていくのか。

西村学校教育課長　　小学校・中学校それぞれ３年ずつということになっており、後１回ずつで終わる。財源がふるさと八代元気づくり応援基金のため、ずっとこの事業に使うことができない。

冨田教育委員　　あと２回あるのであれば、今後講演された人の感想もいれてもらうといいと思う。

和久田教育部次長　　今までずっと総合評価はＦなのか。学校からの評価が多数上がっているとなっているのでＦではないのではないか。

松永教育委員　　事業は評価しにくいが、達成はしているのでＡでいいと思う。

北岡教育長　　評価的な考えからは、実施した回数は達成しているが、実施したことによってどのような効果があったのかを求めるのは難しい。子ども達や先生たちの感想文でいい反応だったということであれば、評価できないＦではなく、いくらかは達成されて、事業を実施した効果があったと言えるのではないか。

松永教育委員　　外部の人の意見や話を聞いて、地域のことも外部の人から教えてもらうと全然違うと思う。

西村学校教育課長　　学校の要望、学校の実態に応じた講師による講話を実施できたこと、現場から感謝の声や生徒のためになったという声が上がってきていることから、総合評価をＦからＡに変更する。学校からの報告書には、教師、子どもたちからの感想を書く欄がなかったため、来年度からは、感想をあげてもらうように改善する。

（承認）

〈休憩〉
議事再開（午後０時５８分）

澤田教育部理事兼生涯学習課長　○学校・家庭・地域の連携協力推進事業
事務事業票に沿って事業内容等について説明

水田教育委員　参加されたボランティアの方の意見や感想はあるか。

ボランティアの方の分は特段もらっていない。コーディネーター、支援員については、コーディネーター会議等で連携をとっており、地元からもっと応援してくれる人がいたらいいのにというような意見がある。

水田教育委員　無償でボランティアの方に頼るのであれば、ボランティアの方の意欲につながるように感謝状を渡したり、市報に掲載したりするとよいのではないかと思う。

澤田教育部理事兼生涯学習課長　参考にさせていただきたい。

冨田教育委員　地域未来塾は、何人ぐらいの生徒が参加しているのか。

澤田教育部理事兼生涯学習課長　参加人数は、延べ２１２１人で、３年生を対象に各学校で実施している。

北岡教育長　３年生は全員参加しているのか。

澤田教育部理事兼生涯学習課長　希望者となっているが、ほぼ全員である。

小嶋教育委員　放課後子ども教室で、子ども同士のトラブル等問題点はあがってきてないか。

澤田教育部理事兼生涯学習課長　トラブルの話は聞いていない。

（承認）

澤田教育部理事兼生涯学習課長　○図書館施設整備事業
事務事業票に沿って事業内容等について説明

質問等なし
（承認）

澤田教育部理事兼生涯学習課長　○生涯学習推進事業
事務事業票に沿って事業内容等について説明

冨田教育委員　家庭教育学級の参加者の年代、年齢の分布がわかるか。

澤田教育部理事兼生涯学習課長　学校等の保護者の年齢になるため、年齢層は２０代から４０代までくらいになると考えられる。

北岡教育長　圧倒的に女性が多いのか

澤田教育部理事兼生涯学習課長　統計はとっていないが、そうだと思う。

水田教育委員　男性の参加も多くなってきてる。

松永教育委員　まなびフェスタ参加者の男女の比率、年齢はどのくらいか。

澤田教育部理事兼生涯学習課長　統計をとっていないが、会場のホールは４～５００人収容で、バザー、高校生の活動などに小さい子どもも参加している。

北岡教育長　高校はどこが参加しているのか。

池田生涯学習課副主幹兼生涯学習推進係長　八代工業、八代高専、八代農業高校が参加している。

小嶋教育委員　市民講座だと思うが、支援学校の先生が高齢者世代を対象に、特別支援教育の話をされた。世代的に発達障がいが認知されていないため、孫や近所の子どもたちに対象の子どもがいても理解されないことが多いが、納得して話をきいてもらって、とても嬉しかったとのことだった。困っている本人への支援はたくさんあるが、家族支援までいかないと問題解決できないと思うので、このような講座を少しでも取り入れてもらいたい。

池田生涯学習課副主幹兼生涯学習推進係長　おそらく家庭教育学級として独自に企画された講座だったのではないかと思う。

小嶋教育委員　　高齢者を対象に話をする機会がないので、生涯学習課の講座等で取り入れてもらうと地域からの支援ということで理解が広がっていくのではないかと思う。

澤田教育部理事兼生涯学習課長　　お出かけ公民館講座で、シルバーエイジを対象にした食育講座などをやっている。いろんな形で工夫をしていきたい。

北岡教育長　　講座の全ての時間ではなくても、一部の時間を使って特別支援教育への理解を深めてもらうと、共に地域で暮らしていこうということになる。

（承認）

澤田教育部理事兼生涯学習課長　○公民館施設整備事業
事務事業票に沿って事業内容等について説明

北岡教育長　　自治公民館について、計画では２５件、実績は３０件となっている。一般的には５件分足りないことになるが、予算はどのようにしてあるのか。

澤田教育部理事兼生涯学習課長　　各町内に立ててもらった計画をもとに、次年度の当初予算を要求している。これまで、予算要求に対してカットされたということはなく要求されたものについては全額支出できている。

北岡教育長　　事前に情報提供して上がってきたものについて予算を獲得していくということである。

澤田教育部理事兼生涯学習課長　　次年度に向けた計画を出してもらわないとできないため、突発的なものについては、受け入れていない。今回は、２８年度に地震により予算を組んでいるが執行できていないものについて待っていただいたり、再建支援補助金、起債等をうけて行ったりしているため、件数が増えている。

（承認）

沖村教育サポートセンター所長　○不登校児童生徒の適応指導事業
事務事業票に沿って事業内容等について説明

松永教育委員　　総合評価がＢとなっているのは、施設が老朽化しているからか。

沖村教育サポートセンター所長　できる範囲のことはやっているが、見学者、入級希望者が多く、手が回らない状況なので、もう少しなんとかならないだろうかとＢにしている。

松永教育委員　ブロック塀は大丈夫か

北岡教育長　道路沿いの塀は、金網に交換してある。

冨田教育委員　くま川教室は、他県の状況を見ても一番成功していると思う。あの施設の中で、あれだけやれるのは他にないので、Ａで良いと思う。

水田教育委員　くま川教室だけでは不登校の子どもたちの数に対して足りない。くま川教室だけでなく、ほかの受け入れ先が八代市内にあればいいのではないかと思う。

北岡教育長　くま川教室まで出てこれるかという問題が大きい。家から出られない子どもや保護者の事情、家庭環境などもあり難しい。

小嶋教育委員　くま川教室にも行けない状態になっている子どもがたくさんいるのが現状である。

水田教育委員　家庭も含めて支援をする人材や予算が必要だと思う。

北岡教育長　以前、関東の方の視察をしたときに、そこでは教育委員会の中に適応指導教室として一部屋あるだけであった。くま川教室のように別の施設にあって、指導員の先生が何人も教科ごとに頑張っているのは、積極的な取組だと思う。場所の問題があるが表立った大きな場所にいけばいいというわけではない。今の環境はいいと思う。

冨田教育委員　人数が３０人になったら、元の木阿弥である。今の２０人前後が何をするにもちょうどいい。たくさん来て欲しいが、枠の中でやっていけたらいいと思う。１年で学校復帰させるというのが問題である。

沖村教育サポートセンター所長　２９年度から３０年度にかけて学校復帰した子どもが５人いる。

北岡教育長　そういう点でも、Ａで良いと思う。

松永教育委員　　体育館でいつも見ているが、回数を重ねるごとに子どもたちの様子にはっきりとした変化が見られる。

北岡教育長　　くま川教室がなければ、学校復帰はほぼ不可能だったのではないか。

小嶋教育委員　　くま川教室だから行ってみようとなっていると聞くとありがたい場所であると思う。小学生の問い合わせは多いのか。

沖村教育サポートセンター所長　　年々問い合わせは増えていて、見学に来る人も多い。いろいろな事情で、体験入級、通級、正式通級までは至っていないが、見学は増えている。

北岡教育長　　総合評価はＡということでいいのではないか。

（総合評価ＢをＡに変更　承認）

沖村教育サポートセンター所長　○特別支援教育相談事業
事務事業票に沿って事業内容等について説明

質問等なし
（承認）

機教育政策課長　○八代市学校・子ども教育応援基金事業
事務事業票に沿って事業内容等について説明

質問等なし
（承認）

機教育政策課長　○通学関係事業
事務事業票に沿って事業内容等について説明

松永教育委員　　不用額の理由は何か

吉村教育政策課学校管理係長　　スクールバス購入の際の入札残額である。

小嶋教育委員　　アルコールのチェックなどトラブル防止的な働きかけは各学校でしているのか、教育委員会がしているのか。

吉村教育政策課学校管理係長　アルコールチェックは、入札における仕様の中に入っている。日々の運行について、授業のカリキュラムによる細かい時間の調整は学校が行っているが、一日の便数等の主要なものは、入札の時点で決まっている。

（承認）

機教育政策課長　○廃校施設管理運営事業
事務事業票に沿って事業内容等について説明

北岡教育長　財源内訳の中に、旧宮地東小学校の警備委託料が入っているのは何か。

吉村教育政策課学校管理係長　旧宮地東小学校は、民間の利活用事業者が賃貸借契約をしているが、警備委託契約については、５年間の市の契約期間が継続しているため、市が負担した委託料を利活用事業者から市へ支払ってもらい、それを財源としている。契約期間は３０年度までとなっている。

水田教育委員　今後この土地を活用したいと地元からの意見はあるのか。

機教育政策課長　旧敷川内分校の跡地は、現在は具体的なことは決定していないが、地元での話し合いはされているところじゃないかと思う。

宮田教育部次長　地元と話をしているところだが、そのまま第２公民館として使わせてほしいと話があったが、耐震を満たしていないため、自治公民館をそこへ建替えたらどうかと提案をしているところである。建替える予定がなかったため、積み立てなどをされていないようだ。

機教育政策課長　○アレルギー対応食提供事業
事務事業票に沿って事業内容等について説明

北岡教育長　手引の修正はいつごろか。

服部教育政策課副主幹兼学校給食係長　年に３回ある研究部会により取りまとめ、平成３１年４月から手引を配布する予定である。

北岡教育長　　３０年度は今の手引で実施していくというところで問題はないのか。

服部教育政策課副主幹兼学校給食係長　　問題はない。

（承認）

〈秘密会〉

＜八市教委議第２３号　平成３１年度使用教科用図書の採択について＞

西村学校教育課長　〈秘密会につき、会議内容は省略〉

【議案第２３号　承認】

６．会議録署名委員の指名　　冨田委員・松永委員

７．閉会　　（午後２時４４分　閉会）

平成　　年　　月　　日

署名委員

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

記録者

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿